

佐藤成広作 テーマ「生きがいについて」① 「生きがいってなんだ？」

効果音 (教室のドアが開く音。「起立」「礼！」イスに座る音)

教師 わたしは、風邪をひいてしまって、今日は声が出ないから…。

生徒 自習！(一同笑い)

教師 お前らは受験生なんだからな。自習にはできない。(封筒から原稿用紙を出す)ここに原稿用紙がある、この時間が終わるまでに、「生きがい」というテーマで作文を書き上げること。ただし原稿用紙3枚以上だぞ！

生徒 (口々に)エー、そんなのねえよ！ etc.

教師 それじゃあ、これから原稿用紙を配る。3枚で足りなかったら、まだまだたくさんあるから、遠慮は要らんぞ。

音楽 (ブリッジ)

孝 おい、浩、お前、どれくらい書いた？

浩 全然。お前こそどうなんだよ？

孝 おれ、勉強家だろう？ だから、「勉強が生きがいだ」って書いたら、3行で終わっちゃったよ。(2人、笑い)

教師 (咎めるように)ウッフン(セキ払い)

浩 おっと、静かにしますよ。おい、孝、お前、生きがいあるか？

孝 帰宅部部長のおれに聞く方がどうかしてるぜ。(笑い)

浩 でも、今ごろまでクラブやってるやつなんか、伸彦だけだぜ。

孝 そう言えばそうだな。今ごろは、帰宅部が急に増えるんだもんな。学校と家との往復だけの生活で、一体生きがいを持ってるやつなんかいるのかな？ ちょっと周りのやつにも聞いてみようぜ。(玲子に)ねえ。

玲子 なあに？

孝 お、ずいぶん書いてるじゃん。一体何書いてんの？

玲子 ヤだあ、見ないで！ わたしのカレのこと書いてるのよ。

孝 へえー。人は見かけによらないもんだね。(玲子、孝の足を踏む)いてえ！

玲子 人のこと冷やかすからよ。それよか、早く書かないと3枚仕上がらないわよ。

孝 はいはい、分かりましたよ。おい、浩、お前のほうはどうだ？

浩 こっちはみんな書いてるぜ。スポーツとか、趣味とか。

孝 スポーツか。おれもスポーツの“ス”の字ぐらいできればいいんだがなあ。この前、ソフトボールで、トンネル3回に、フライを1回落としてるもんな。

浩 おれだってスポーツはダメだぜ。なにしろ、テニスでラケットに球が当たってくれないんだもん。(2人、笑い)

教師 おい、その2人！ もう書き終わったのか？

孝 は、はい。

教師 それじゃあ、こっちに持ってこい。早く！

孝 あの～、それがまだなんです。

教師 じゃあ、静かにして早く仕上げろ。あと20分しかないぞ。

孝 生きがいなんてないですよ。

教師 自分の生活をよ〜く考えてみろ。生きがいの一つや二つ、すぐに見つかるぞ。

孝 そりゃあまあ、食べることとか…。(一同笑い)

教師 まじめに考えろ。「生きがい」という題の作文を書かせた大学は多いんだぞ。来年も、必ずどこかの大学で出るはずだ。その対策としてやらせてるんだから、もっとまじめにやれ！

孝 は〜い。おい、浩、何書いてんだよ？

浩 「生きがい」についてさ。おれは音楽を聴くことが生きがいなんだ。音楽を聴くのが、あんまり当たり前すぎて、気づかなかったんだ。

孝 そうか。(モノローグ)おれの生きがいってなんだろう？ 朝は7時に起きて、メシ食って、遅刻寸前に学校到着。学校では適当に授業を聞いて、それが終わるとすぐ帰宅。うちに帰れば宿題をやって、ラジオ講座を聴いて、少し受験勉強して、寝る。——こんな生活のどこに生きがいがあるんだろう？ 今まで生きがいについて考えなかったから、惰性で生きてきたけど、おれの生活に生きがいなんて、ほんとにあんのかな？

<続>